

ハイライト

潮陵ラグビー部OB会会報

第 会 長：藤中博文 ☎0134-62-2351

4 事務局：☎047-0034 小樽市緑2-11-7

号

久保寿史方

箕原武夫 ☎090-8637-9988

会報編集部：間 博信 ☎01237-2-3536



OB・現役の別なくグラウンド狭しと走り回る

初のラグビー

フェスティバル

笑いあふれ和やかに

潮陵ラグビー部OB会恒例のOBー現役対抗戦は平成十二年八月十三日、潮陵グラウンドで行われた。午後一時にキックオフの第一

戦績忘れバーベキュー

家族いっしょに

恒例のOBー現役対抗戦

試合を皮切りに、二十分ハーフで三試合。試合はOBの二勝一敗に終わった。



楯円球を持って走る白方先輩めがけて後輩たちが猛突進

二十世紀最後の平成十二年は、試合後の楽しみが年寄りたち、否OBたちの気合をさらに盛り上げるものとなった。何しろ、グラウンドには、喉に染み渡る冷たいビールが待機していたからである。

もちろん飲み放題。(が、飲んだ分はみな自分持ち。それが大人というものです。)さらにジンギスカン、牛肉、たっぷりの野菜でバーベキュー、そして焼きそばまでである。こちらは幾ら食べても追加料金なし。子供にかえても幾らでも食べるがいい！(お願いー頼みます。差

ビール飲み放題 ただし自分持ち 記念シャツ販売

し入れにビール、ジュース類はご考慮下さい。何せ売上が減りますので...
記念Tシャツも販売され現役、OB、そして家族、子供たちも交えての、第一回ラグビーフェスティバルと銘打った一大パーティーは、汗くささがムンムンする中、笑いにあふれ和やかなうちに開きとなった。

潮陵ラグビーフェスティバル決算書

収入			支出		
項目	単価	数量	金額	項目	金額
会費	1,000	67	67,000	肉野菜等	27,835
樽生戻し金	80	180	14,400	焼きそば等	7,243
				コープさっぽろ	2,463
				ホームック	1,949
				ならみだてストア	499
				セロ-Martのぐち	1,005
				セロ-Martのぐち	1,005
計			81,400	計	40,994
				差引残高	40,406

会費・寄付の納入法

会費や御寄付は下記の郵便払込口座番号にお払い込み下さるようお願い致します。

郵便払込口座番号：

02710-1-9270

名 儀：小樽潮陵ラグビー部OB会事務局

初V びっくり潮陵小樽

第3回全道高校ラグビー選手権大会(札幌月寒)が、函館北を破り、優勝を飾った。来年3月の全道大会をむかえ、喜びにあふれて猛練習を開始した。

潮陵ラグビー部は平成十二年十月十七日、札幌月寒ラグビー場で開かれた第3回全道高校ラグビー選手権大会で初優勝を飾った。そして、二十一世紀初年となる平成十二年三月、東京で開かれる全国選手権大会への出場を確実にし、喜びにあふれて猛練習を開始した。

選手権大会(17日)、札幌月寒。選手権大会(17日)、札幌月寒。選手権大会(17日)、札幌月寒。

函館北	100005	100005	100005
小樽	100005	100005	100005
旭川	100005	100005	100005
釧路	100005	100005	100005
帯広	100005	100005	100005
苫小牧	100005	100005	100005
室蘭	100005	100005	100005
札幌	100005	100005	100005
札幌南	100005	100005	100005
札幌東	100005	100005	100005
札幌西	100005	100005	100005
札幌北	100005	100005	100005

号外版

スポーツ各紙が一斉に華やかに報道

2000年(平成12年)10月18日(水曜日) スポーツ報知

小樽潮陵初出場



堀江君が大活躍

中学時代に陸上3種混合Bの全道覇者となった堀江昌史主将(2年)は、前日から4試合で10トライ、決勝戦で3トライをゲットする大活躍。

初制覇 快走堀江

フルバックの位置にいる堀江昌史は、ボールを回れば必死の「コンタクトプレー」は自慢である。小樽潮陵は、前日の練習で、フルバックの位置に居る堀江昌史が、ゴール前に走り込んで、トライをゲットした。

15人制ラグビーの大会。小樽潮陵はスクラム、トライにから出したボールをすくに出、結びつけた。

第3回全道高校ラグビー選手権大会(17日)、札幌月寒。小樽潮陵は、前日から4試合で10トライをゲットした。



試合開始前に整列



ベンチでくつろぐOBたち



OB同士の語らい

OB会スナップ

100人以上が集う

ラグビーフェスティバル終えて

実行委員長 69期 大川 剛司

潮陵ラグビー部OBをはじめ、父母会の協力により、第1回潮陵ラグビーフェスティバルを開催することができ、関係各位には大変感謝しております。参加者も現役を含め100人を超す人数が集まり、われわれ実行委員もほっとしているところであります。

いちOBとしましても、父母会や現役諸君と交流が持てたことは、非常に嬉しいことと思います。OB各位におかれましては、昔話に花を咲かせて、つい時のたつのも忘れるほど、楽しい時を過ごせたのではないのでしょうか。

フェスティバルと呼ぶには物足りない内容かも知れませんが、われわれにとっては今後引き続き第1歩とされており、この機会を通じて少しでも潮陵ラグビー部を盛り立てることができ、また、ラグビーというスポーツを通じて、父兄との親交を持てれば、非常に有意義な催しだと思っております。

今後も、より一層の参加者が集うような催しになるよう、努力してゆく考えておりますので、皆様方にはご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

ファイト! ファイト!



ボールを奪い合ってOBと現役が激突



試合開始前に秘策を練るOB軍



同期同士? 和やかな語らい

ベンチは和気あいあい

相川君去って早や四年

神式では五年祭

平成八年十一月八日、喘息発作による心臓停止、四十六歳。相川伸廣君の訃報はあまりにも突然すぎ、にわかには信じることができなかった。現OB会の発足をはじめ、その運営においても、持ち前の力量と尽力、人柄で、常に牽引車として先陣を切り、みんなをまとめて、OB会に多大の貢献を惜しまなかった彼の業績を、だれしも決して忘れることはできない。

畏友・相川君が他界して早や四年になる。神式では五年祭と言う。その節目の年を機会に、縁が深かった先生、先輩、後輩に、相川君の思い出、その人となりをつづつてもらいたい、いまだ、各人の胸の内に彼の顔と姿を想起して戴こう。

合掌

根性と努力の同期生

一番遅くまで練習

62期 上八合 統純
(盛岡市津志田在住)

私の潮陵ラグビー部の思い出、それは汗の匂いと穴の開いた伝統の香のするジャージ。楯田と言うよりバスケットボールのような出、それは数も少ないボール。



愛犬コテツを抱いてご機嫌の相川君

武田先生、先輩、同期生、後輩と、いろいろありますが同期のSHとの思い出を。相川君との出会いは二年生の春のことです。私も体は小さいが、彼は一見して「チビ」一六〇センチ五〇キロです。私はWTB、彼はSHと指導を受け、練習をしました。毎日一番遅くまで練習していたのが彼でした。

また、私がトライすると「土谷、良かったー良かったー」と声を掛けてくれたのも彼です。われわれは三年生の最後の試合まで、主将の山崎君と三人でラグビーを続けました。戦績は何も有りません。

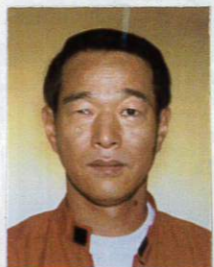
プレーヤーとしても素人のままで終わりましたが、二年生の冬、私は彼について「お前、何やってんだ！」

伸廣君を偲んで

と怒声を浴びせました。彼が手首の腱を切る怪我をした時のことです。

SHの大事な球出しが出来ない。選手生命も終わる？。だが彼は「土谷、どうだ！」「どうだ！」「と練習。手首を悪くした彼は、体を支えられず、幾度も幾度もグラウンドに顔を叩き付けながら「どうだ！」「どうだ！」「とダイビング。パスを投げ続けた根性と努力のSHが、同期の故相川伸廣君です。

名前も住所もない 励ましの手紙届く



64期 牛木 紀紀 (焼肉三四郎花園店)

相川さんとのラグビーのエピソードを、ひとつ書いてくれと言われて、何を書いたらいいか戸惑いました。卒業して三十年もたち、記憶も薄れてきているけど、私には今でも忘れられないことが二つあります。

一つは、武田先生に三年間で二回殴られています、

相川伸廣君の追悼ページ

温かい眼差しには感謝

62期 岡本 光昭 (札幌市西区八軒在住)

人は人と関わることで、ときに他人に深い傷を与えてしまうことがある。それでも、人は他の人と関わらずには生きては行けないし、傷つけあうほどの関係もなしに、人と関わり続けることは、却ってうそ寒い。

私の五十年の生の中にも多くの悔いがあり、取り返しのつかない出来事がある。私のわがままや無責任さから、私がひどく傷つけた人たちがいるという思いは、



心の底に激のようにわだかまっています。それは、ときに浮かび上がっては、私の現在を疼かせる。過去になりきってはいられない「過去」となっている。

このような中、相川君は

いつも温かい眼差しを私に向けてくれた。試合のスケジュールやOB会・同期会の案内、近況の確認等々、現在、私がかろうじて（本当は資格さえもないのだが、「潮陵ラグビー部OB会」と関わりを持たせていただけるのも、相川君の気配りの賜なのである。

伸廣君を偲んで

武田 庸雄 (元監督・七飯町在住)

原稿を依頼され、伸廣君が逝去されてもう四年になるかと、光陰の早さを痛感しています。

彼との長い付き合いの中で一番驚いたことは二年生の冬、友人に遊び半分、体育館入口前の板上からグラウンドに向かって雪の中に投げられ、その時牛乳ビンの破片で、左小指の腱を切断したことです。

将来、親の跡を継ぎ美容師として生計を立てようとしているのに、その道を絶



相川 美紀子

ラグビーというスポーツを初めて見たのは、三十年前、主人に連れられて行った潮陵高校のグラウンドのことです。卒業して二年くらいだったと思います。数人の学生がグラウンドを駆け回っていたのを思い出します。まだ結婚前でした。

練習を見に行ったら三日後

仲間にも生まれ旅立つ

私は無口で物静かな少女でした。何も言えず退屈で、練習が終わるのをじっと待っていた記憶があります。スポーツ音痴の私に、一生懸命ラグビーのルール等を説明している姿が、今でも思い出されます。

後輩の皆さんはよく家に遊びに来て、騒いでくれました。改築したばかりの部屋で飲み会をやったり、父に説教されていたり、今でもその時の事で話が盛り上がり、一度お正月に数人で遊びに来た時の事、間さんに

起き上がり、反対方向に走って行った姿は忘れられません。

平成八年のOB会総会以外にはあまり出る事少なかった主人が、久しぶりに愛犬コテツを連れてグラウンドに練習を見に行き、満足そうな顔で帰って来られた。その三日後に帰らぬ人となってしまいました。

最後までラグビーを愛し、仲間たちに囲まれて旅立ちました。OB会、現役の皆様の活躍を見守っている事と思います。

現役最後まで彼の手に白いサポーターが有りまし

「こらっ！ おめえは...」として「本当に、おめえは...」が彼の口癖でした。私は彼から「本当に、おめえは...」の後の言葉を聞けずに終わりましたが私は彼に「本当に、お前は...」(最高のSH)と言います。

SH 故相川伸廣君のご冥福を祈ります。

一回は自分が悪いことをし

私には最初WTBの練習をしていましたが、対面(人)を怖がるので、夏の合宿ではFWの練習をさせられていました。合宿でHBの相川先輩と小林君が故障したため、急遽HBの練習をさせられていました。

合宿後のポート部との試合の時、マイ・ボールのスクラムで、相手にスクラム・トライを許してしまったり、武田先生に「何やっとなん」と言われて、ぶっ飛ばされました。

自分では悪くないと思っ



在りし日の相川伸廣君 (最前列の左端)

私の専属の理容師さん



67期 山口山 和弘 (小樽市入船在住)

相川さんは私にとって、大先輩であり、専属(あくまでも私にとって)の理容師さんでもあった。相川さんに髪を切ってもらい始めたころは、剃刀でレザーカットしてくれ、そのうち

ていますから、すごく腹が立ち、辞めようと思っていた時に、相川さんに「今の

はお前のせいではない。ガンバレ！」と声を掛けられました。その一声で気分が晴れ、辞めなくて済みました。

もう一つは、夏の合宿に三年生が三人しか合宿に入らず、先生も元談半分「あす、みんな土方に行くか？」と言うほど盛り上がり、自分のキャプテンシーのなさに情けなくなっていました。

そして迎えた国体の対室蘭工業戦に、三年間で経験したことのない大敗を喫した時、試合が終わって室工にエールを送っている時、自分の三年間は何だったんだらうと、無償に悔しくて涙が止まらなかった。もうラグビーは辞めようと思った。

そして、火曜日に「ラグビーを辞めます」と言って友人と喫茶店で「何をしようか」と話し合っていた時相川さんがラグビーのユニフォームでやって来て「一緒に練習するぞ」と一言い残して帰りました。

二、三日過ぎたころ、名前も住所もない手紙が届きました。それは文字から、相川さんからの手紙だとすぐ分かりました。「結果じゃない。プロセスが大事な

真福をお祈りする次第である。

相川君が亡くなって四年の歳月が流れた。改めてご

お互いまだ若いころ、「芸能人の〇〇さんみたいな髪にしたい」とお願いして椅子に座った。相川さんは鏡越しに例の笑顔を見せた。出来上がったのはいつもと全く同じ髪形だった。

ある日、散髪中に「お前も薄くなってきたな」と言われた。「自分も気になってるんだ」と答えると、「これ効くみたいだぞ」と養毛剤のサンプルをくれた。その養毛剤は使わないまま洗面台の奥にしまっている。また別の日、洗髪中に首筋からシャワーのお湯が入り、私の背中を濡らした。相川さんは慌てず騒が

んだ。「まだ高体連があるんだ。ガンバレ」とも書いてありました。

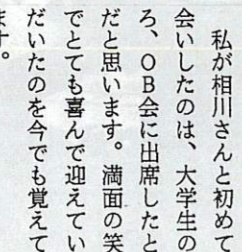
一週間くらい考えた末、もう少し頑張ろうかと思いつた。武田先生に「もう一度ラグビーをやらせて下さい」と言って、練習に参加しました。後輩たちも「キャップテン」と言って、何もなかったように迎えてくれました。

それから高体連に向かった。先生の教え子である木下金吾さんを連れて来て猛練習が始まり、火曜日に相川さんも来て、ハーフの特訓をさせられました。いま思うと、あれは先生と相川さん、木下さんが意識的に私一人をシゴいたのではないのでしょうか。そして三年生全員の目の色が変わり、全道大会に進出することが出来ました。

全道大会では準決勝で敗退しましたが、国体予選で大敗した室工に、ひょっとしたら勝てるかもしれないと思わせるほど善戦。すごい満足感を味わい、ラグビーを三年間やってきて良かったと思えました。

相川さんとは三年生と一年生、同じハーフという関係で、いろいろご指導頂き本当にありがとうございました。心からご冥福をお祈り致します。

OB会を引継ぎたい



77期 村山 康志 (ソニー生命保険勤務)

私がおかしいのは、大学生のころ、OB会に出席したときだと思えます。満面の笑みでとても喜んで迎えていたのだいたいのを今でも覚えて

現役時代は恐ろしい先輩だったのですが、私は幸いそのころの相川さんを知りません。その相川さんが作って下さったOB会を、より発展させ、後輩に伝えていくことが、今は亡き相川さんに対する恩返しになると思っています。

幻の逆転トライ

楢岡球追う青春の軌跡



安井先生の適切な指導と数回にわたる合宿生活で、われわれの力は急速に伸びてきた。練習試合では当時の小樽商大を破るほどの力をつけていた。3年生になってからは、今まで一度も勝てなかった千秋高校を下し、念願の地区代表校の切符を手に入れた。当時のフィフティーンを紹介する。



ブロップに首太く肩幅広い大和と竹花。フッカーは足の先に目があるとされた松尾。ロックに頑丈な体の渡辺とただ一人の2年生の庄司。ナンバーエイトは出足鋭い竹内キャップと水平タックルの名手山崎。フルバック山田義明。フランカーにキープの上手な宮前ボン。スクラムハーフは絶妙なパスを繰り出す工藤。

スタンドオフはファイトマンの小森司令塔。センターは機敏な小松とインターセプトの得意な浦野。ウイングは陸上競技部出身の快速コンビ服部と石塚だ。そしてフルバックが再三のピンチを救ってくれた山田である。控えは小林、三谷、新田、高橋。

部長はオドッチャこと新岡先生。オドッチャはラグビーのラの字も知らなかった。「オメーラ、勝ったら旨いもん食(か)せるぞ」とハっぱを掛けるだけ。当然コーチは多くの先輩たちをお願いした。大学生の山本先輩が禁煙してまで一緒に走ってくれた。それなのに陰で一服やって大目玉を食らったのも、今では懐かしい。

地区代表になったわれわれは「水産高校の志村先生をコーチに頼んでくれ」とオドッチャに強要。志村コーチとの強化練習を開始。志村コーチは「フォワードは低く組んで、下から相手を浮き上がらせろ」「バックスは体の小さい分を走りて補え」を短期間で徹底して指導してくれた。満を持して全道大会の北見市に乗り込んだのは昭和26年の秋である。

前評判は低かった潮陵だったが、巨漢ぞろいの帯広三条高校を大

接戦の末、8対6で破って準決勝に進出。他のチームと比較すると体格も格段に劣り、坊ちゃん顔した進学校の潮陵の勝利にグラウンドはどよめいた。

2日目の準決勝、相手は強豪函館西高校だ。道東特有の透明感ある秋晴れの下、試合開始のホイッスルが鳴る。フォワードが頑張る、頑張る。函館西の重量フォワードと互角に組んでいる。戦略通りナンバーエイトの竹内と山崎は敵のスタンドオフを素早く潰し、バックに球を回させない。前半半ば、工藤から素早いパスが小森に渡る。拜むように球を持って小森が突進する。楢岡球が浦野-小松、そして服部へ。100m11秒台の服部が左隅に飛び込む。ヤッター。先制のトライだ。しかし、さすがは函館西だ。続けて2トライ奪取。6対3でハーフタイム。



礼儀正しさに盛大な拍手

後半開始。工藤が小森にパスすると見せかけて、右ウイングスの石塚にパス。サイド攻撃だ。石塚が肩を揺すって突き進む。ステップして相手ウイングを躲(かわ)した。あとはフルバックのみ、相手の鋭いロータックル。石塚は牛若丸のようにひらりとハイジャンプ。着地し一歩二歩、ゴール目前。トライをし、ゴールすれば逆転だ。しかし、石塚の体はグラリと傾いて芝生に転んだ。嗚呼…。

9対3。準決勝で涙を飲んだ。試合後、整然とグラウンドを一周し、役員テント前で一礼する潮陵ラグビー部員は、「さすが名門潮陵高校だけあって、礼儀も正しい。立派なものだ」と盛大な拍手を頂いた。

オドッチャは試合に負けたわれわれに、腹いっぱい旨いスキヤキを食わせてくれた。夜更けにハプニング。オドッチャが階段でウィスキーの空瓶を落とす。ガラガラゴトンゴトンという音に皆が目覚ます。志村コーチと密かに祝杯を上げていたのだ。若き紳士たちは顔を見合わせ、ニヤリと笑ってまた眠りについた。

プロフィール

右ウイング、怪我でマネージャーに転向。昭和27年卒業。学芸大学に進学。小樽市立色内小学校校長で退職。

相川伸廣君を偲んで

17期 高岡橋 昭 (清水建設東京支店勤務) 昭和四十年ごろ、テレビドラマ「青春とは何だ」でラグビーチームに火が付き、クラブへの勧誘をしながらも、大勢の新生が入部して来たころ、彼もわれわれの一員となりました。

人なつこい顔、体は小さく内股歩き。ウイン、ハーフとして育てよう。私がスタンドオフで、常に彼の隣のポジションにいたせいか、下級生の中で一番関心をもって指導していたような気がしています。一年先輩を押し付けて、二年生でレギュラーになり、試合に対しては責任感が強く、練習中は後輩を真剣に叱り、練習後は良き先輩として、優しく面倒を見ていた姿が印象に残っています。私が風邪で練習を休んだ夜に、わざわざ見舞いに来てくれました。そのご本人は四十代後半で突然死しました。ラグビーを通じて人格の大半を形成し、後輩・同級・先輩からも慕われていた相川君。遠くから潮陵ラグビー部の活躍を見守っていて下さ

全国出場号外版

日刊スポーツ

2000年(平成12年)10月18日



小樽潮陵初の全国出場

◇17日◇札幌・月寒ラグビー場◇決勝リーグ6試合
小樽潮陵がセブンズ7人制で初優勝を飾った。決勝リーグで根室を17-5、函館北を17-12で下し、2戦全勝で全国大会(来年3月30日から、東京・江戸川区陸上競技場)の切符を勝ち取った。堀江昌史主将(3年)にボールを集める作戦が勝利

大会の経験を来年にない草。前日は全道初優勝を挙げ、1トライ差でフルバックを逃がす健闘したが、2位に陥入るも勝も挙げられずに終わった。特に美幌戦は相手選手を寄せられ、0-43の大敗。吉岡孝洋監督は「このプレイの大切さが分かったと思う。この経験を来年につなげてもらいたい」と選手たちに語りかけた。

道新スポーツ

予選接戦制し力み抜けた
第3回全道高校セブンズラグビー選手権
最終日(17日)札幌・月寒ラグビー場
予選リーグ1位の根室
函館 潮陵 17-5 根室
初め、潮陵が全勝して初の全国切符を手にした。全道大会は来年3月、東京で開かれる。
【キャプ(立)リー】
函 北 17-10 根 室
札幌 17-5 根室
函館 24-10 苫 田
美 幌 43-0 苫 田
旭 川 20-15 札幌
立 命 館 31-10 札幌
立 命 館 25-12 札幌
①立命館 ②札幌 ③札幌 ④立命館

樽潮陵初

樽潮陵の意気込み(い)だて、堀江昌史主将(3年)が走りまわった。相手チームを次々にかわし、優勝がかかった函館戦では3トライすべてを挙げた。優勝は、全道大会10トリーの活躍で優勝経験がある堀江主将が中心となり「開き直った」という気持ちで、監督自身も15人制にこだわっており、セブンズの練習は「2つの大会も」に2年生が修学旅行から戻ってきたばかりで、14日

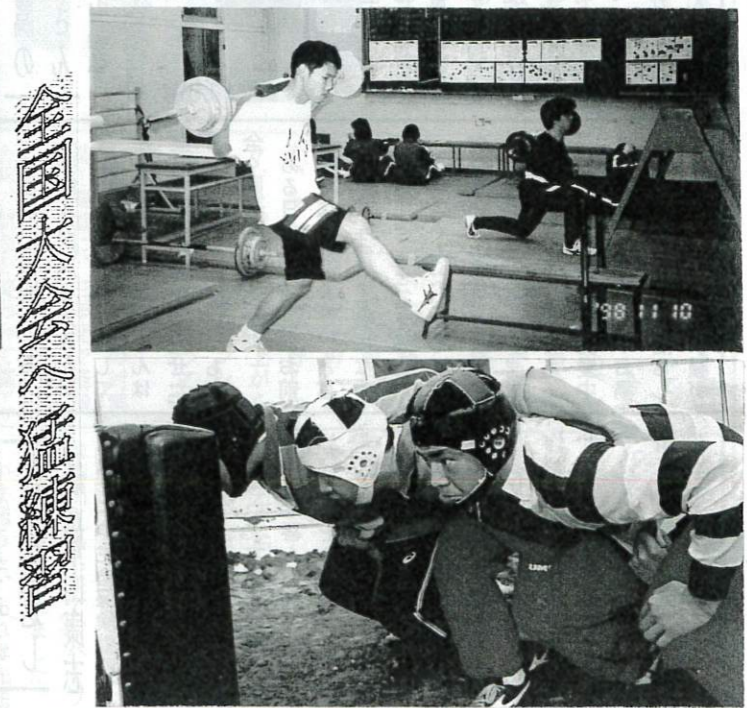
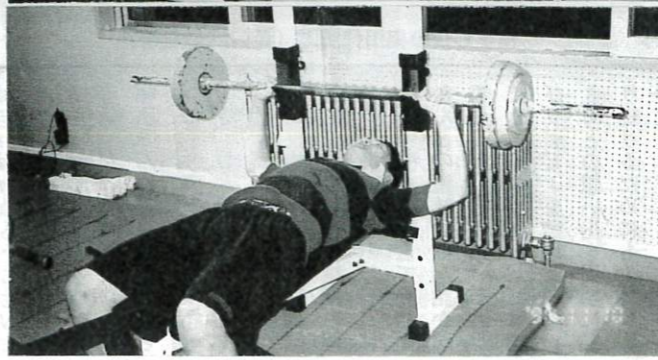
堀江大会10トリーの活躍

試合後、「試合の度に成長している」とその成長を語り、監督自身も15人制にこだわっており、セブンズの練習は「2つの大会も」に2年生が修学旅行から戻ってきたばかりで、14日



初優勝で全国出場を決め、喜びを爆発させる樽潮陵

大会の経験を来年にない草。前日は全道初優勝を挙げ、1トライ差でフルバックを逃がす健闘したが、2位に陥入るも勝も挙げられずに終わった。特に美幌戦は相手選手を寄せられ、0-43の大敗。吉岡孝洋監督は「このプレイの大切さが分かったと思う。この経験を来年につなげてもらいたい」と選手たちに語りかけた。



三年連続で全道大会へ

OB会主催で壮行会

70人近く参加し盛り上がる



潮陵高校ラグビー部は昨年に引き続き今年、三年連続で全道大会への出場の見込みを果たし、平成十二年九月二十三日、小樽「まちの寿司別館」でOB会主催の全道大会への出発式と壮行会が盛大に開かれた。

生徒三十人、監督・コーチ四人、父兄十八人、OB十六人の総勢六十八人が参加。会長挨拶、父兄代表の挨拶のあとすぐ宴会に入りました。

宴たけなわとなったところで、例年通り成田監督が選手たちを紹介。新一年部員たちも紹介、マネージャー

壮行会では選手たちを一人ずつ紹介



7人制ラグビー大会で優勝した時のうれしそうな仲間たち。後列右から2人目が僕(清水)

ラグビーとの出会い

91期 清水基弘

僕とラグビーとの出会いは、親友との出会いでした。僕がラグビーを始めたのは高校の秋からです。それまでなんとなく過ごしてきたんですが、僕の生活はラグビーによって一変しました。

それからは、毎日の練習が楽しみで、一般にラグビーはつらいとか言われていますが、そんなことは少しも感じませんでした。なぜなら、良き指導者と先輩たちがいたし、一緒にやる仲間がいたからに違いありません。

彼らとは今でもよく会って、当時の話題に花を咲かせて盛り上がります。最高の友と巡り会わせてもらったラグビーに感謝します。

OBたち祝勝歌を合唱



父母たちの語らいにもつい熱が入る

1たちも紹介した。宴会が一層盛り上がったところで、初戦の相手・函館有斗戦の必勝を誓った。出して宴会はお開き。

札幌山の手
全国十八人へ
わがOBが監督
潮陵ラグビー部OB75期

の佐藤幹夫君が率いる札幌山の手高校が、全道大会で見事に栄冠を手にし、全国大会への出場権を獲得した山の手は平成十二年十二月

期待された全道大会は、健闘空しく一回戦で敗退したが、その果敢な戦いぶり



ラグーファイトは分からないが、口は達者な新部員



奇麗どころのマネージャー 「いいですねー」

親と息子の対決

61期 関川哲司



今年も八月十三日(日)にOB対現役戦が晴天のもと潮陵グラウンドで行われ、私と息子の対決があった。タックルしようとした時、

相手と眼が合った。息子である。応戦態勢をとり待ち構えると、それまでの息子の猛突進がうそのようにフワッとぶつかってきた。父へのいたわりか、それとも...ふと十数年前の父と私の試合の時のことが、走馬灯のように思い出された。来年は、父、私、息子で

二十七日から東大阪市の花園ラグビー場で始まる全国高校ラグビー大会に出場する。同じOB仲間として、心から祝福し、初戦突破を心から祈っている。

フワツとぶつかると

スクラム

OB会に参加させたいだけ。前号で確か何が起きる、と記した記憶がある。確かに起きてしまった。潮陵ラグビー部、否、高校としての久々の、イヤ数十年ぶりの快挙である。全国大会出場キップを手に入れたのである。詳しくは号外版を参照してほしい。この報を知らせる荣誉が、こんなに早く訪れるとは、OB諸氏も思ってもみなかった事である。



H. Hiwata

ろう。地元OB達は現在選手たちの全国大会参加資金の募金活動に向け、後援会の設立や活動準備にてんやわんやである。普段は記事が足りず悩む日々ですが、今回ばかりはレイアウトの変更続きで、三分の一の原稿が次号回しに。悪しからず。また、しばらくはOB各位にいろいろな面で協力を仰ぐ事になりますがよろしく願います。(聞記)